教育だより
青森県教育庁下北教育事務所
平成３０年３月発行
第６０号

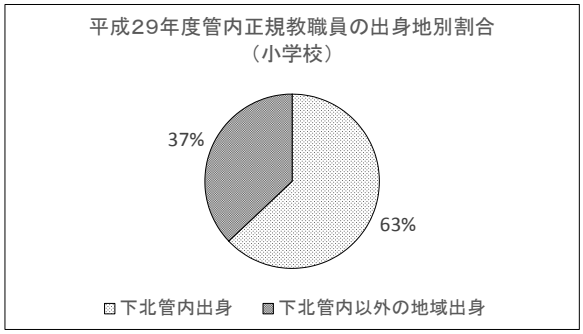
管内教職員の人材確保の現状と課題

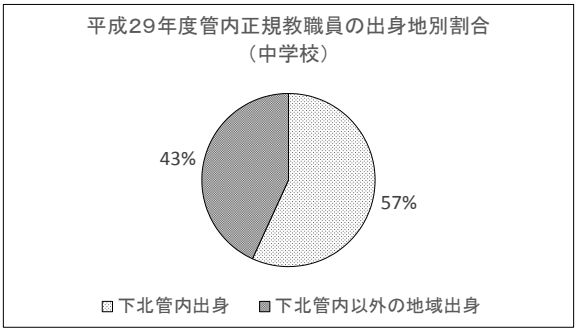
次　長　　祐　川　秀　永

『昭和』から『平成』と元号が変わってから早３０年が経とうとしています。その『平成』は、天皇陛下の退位が皇室会議や閣議を経て決定したことにより、あと１年あまりで終了すると、昨年１２月に報道がなされました。また、同年３月には文部科学省より新しい学習指導要領が公示されました。４月からはまさに節目となる「平成３０年度」を迎えることになります。各学校におかれましては、新しい時代に求められる学校づくり、とりわけ教育活動の改善と見直し、移行措置などの動きが加速度的に進んでいることと思います。教職員の皆様方の日々の御苦労に感謝申し上げます。

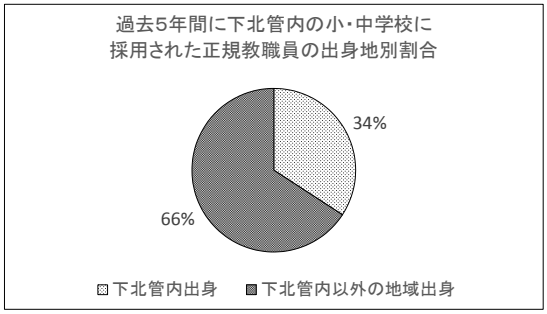
さて、平成２９年度を振り返りますと、これまでにないほど臨時講師等の人材確保に困難を極めました。配置するまで時間がかかったり、配置できないままになったりと関係各校には御迷惑をおかけしましたことを心からお詫び申し上げます。

臨時講師の不足は、教職以外の職業に就く若者が増加するなどで、全県的な傾向ではありますが、特に下北管内には、人口集中地域から遠いという地理的事情を理由に、赴任を希望しない方が多数いることも、このような事態を生む大きな要因となっています。そのような中にあって、教職を志し他の地域から管内に赴任し、下北の児童生徒のために熱意溢れる指導に努めていらっしゃる教職員の皆様の姿を拝見するたびに、下北の出身である私も、自身の心を今一度引き締めて職務にあたらねばと思う次第であります。





上記のグラフは、今年度の管内正規教職員の出身地別割合を表しています。小学校は３７％、中学校は４３％が下北管内以外の地域出身者で、その中の多くが教職員として採用されて下北管内に赴任した方々です。現状においては、管内の学校教育は下北以外の出身者の力がどうしても欠かせない状況にあると言えます。さらに下記のグラフでは、過去５年間に下北管内の小・中学校に採用された教職員、すなわち教職経験年数が比較的少ない世代は、下北管内以外の地域出身者が約７割と圧倒的に多いことが分かります。この世代の教職員の中には、将来的には下北の地を離れなければならない事情を抱えた方もおり、特にこの世代の教職員の確保については今後も厳しい状況が続くことは確実です。



下北で生まれ育った教職員を増やしていくことも当然必要ですが、下北の地に根付き下北の児童生徒とともに教職人生を歩んでいける人材を発掘すること、そして、教職を目指している者や現在教職に携わる者にとってこの地で頑張りたいと思うような下北ならではの魅力のある環境をつくっていくことが急務と考えています。

改めて感じる授業改善の必要性
～県学習状況調査質問紙調査結果から～

主任指導主事　山本　明美

学校訪問や各事業に際して、多大な御理解と御協力をいただき、大変ありがとうございました。

また、授業スキルの向上だけでなく、新学習指導要領の理解を深めることをねらいとした道徳科や外国語、ＩＣＴ活用の講義など、多岐にわたる随時訪問の要請を数多くいただきました。熱心に学ぶ児童生徒や真摯に授業に向かう先生方の姿を拝見し、「子供たちのために」と授業改善について共に考え、話し合う場を御提供いただいたことや、今後の方向性を示唆する情報提供の機会を与えていただいたことに、深く感謝いたします。

さて、今年度の県学習状況調査については、既に各学校で分析を進め、次年度の教育課程編成や日常の授業改善にどのように生かすか検討されていることと思います。

下北管内の通過率に関しては、以下のとおりです。

（単位：％）

小学校	国語	社会	算数	理科		全体
下北管内	55.1	61.2	50.8	58.9		56.6
県全体	55.2	64.3	52.2	60.3		58.2
下北と県の差	−0.1	−3.1	−1.4	−1.4		−1.6
中学校	**国語**	**社会**	**数学**	**理科**	**英語**	**全体**
下北管内	50.0	53.6	44.5	52.6	58.6	52.0
県全体	51.6	52.7	46.3	53.1	57.2	52.3
下北と県の差	−1.6	+0.9	−1.8	−0.5	+1.4	−0.3

今回は、３年ぶりに質問紙調査も行われましたが、その中から、以下の項目を通して、管内の状況について考えてみたいと思います。

（１）勉強について、及び授業について

（単位：％）

	小学校				中学校			
	勉強について		授業について		勉強について		授業について	
	大切	好き	よく分かる	分からない	大切	好き	よく分かる	分からない
国　語	92.2	70.6	84.6	4.7	91.5	61.7	66.1	4.6
社　会	89.2	71.1	80.4	4.2	80.0	63.1	61.0	9.7
算数・数学	92.0	75.6	77.7	6.6	85.9	59.5	60.2	15.6
理　科	90.4	88.7	91.0	2.6	73.5	69.0	60.8	11.1
外国語活動・外国語	91.5	82.0	79.4	8.1	79.9	59.7	55.8	17.2

各教科ごとに、その教科の「勉強が大切」「好き」「よく分かる」の割合の相関に注目してみましょう。

小学校においては、どの教科についても大切と考える子の割合は高いのですが、活動的な場面が多く設定される教科は、「好き」と答える子の割合も高いことが分かります。例えば、国語は、「大切」と考える子が最も多いのに「好き」と思う子が少なく、理科は「好き」であり

「よく分かる」という子の割合が最も高いです。ただし、「よく分かる」の割合は比較的高いものの、学習状況調査の通過率に関しては満足してよいとは言えない状況です。児童が「学ぶことが楽しい」と感じる授業の仕掛けを大切にしつつ、「活動あって学びなし」にならないよう留意したいものです。

中学校においては、まず、「勉強が大切」と思う割合が教科によってだいぶ異なることに注目してみましょう。高校受検を視野にという短期的な指導だけでなく、今学んでいることが将来の自分にどのように関わるのかというキャリア教育の視点でも、生徒に学ぶことと生活との関連を実感させることが必要なのではないでしょうか。また、授業が「よく分かる」については、小・中学校を比較すると、どの教科も20ポイント程度の差があります。生徒に学ぶことの楽しさを味わわせたり充実感や達成感をもたせたりするためにも、中学校の先生方がもつ教科の専門性を大いに発揮していただきたいと期待しております。

児童生徒の興味・関心や学ぶ意欲を高める工夫があるか、主体的に学習に取り組む良さを感じさせることができているか、努力して学習に向かう姿勢を認めほめているか、「分かった」という満足感や達成感をもたせることができているか等、この結果には、自身の授業を振り返る視点がいくつも示されているように思います。

（２）家庭学習について

①家庭学習の時間

平日	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	5.9	17.4	45.5	26.5	4.0	0.7
中学校	3.1	22.2	48.9	19.6	5.2	1.0
学校が休みの日	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	1時間以下	全くしない
小学校	4.5	9.9	22.5	37.6	23.5	1.9
中学校	3.6	18.1	34.1	32.6	9.6	2.0

（単位：%）

②家庭学習の内容

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば宿題をする	テストがあればする	予習する	復習する	興味があることについて調べたりする	苦手な教科に取り組む	時間を決めてする	学習内容を自分で決めてする
小学校	2.4	77.4	56.9	32.2	53.4	26.8	35.1	21.9	51.8
中学校	3.7	76.6	66.6	11.4	52.4	18.3	35.9	13.6	46.1

管内の小中学生は、全体的な傾向として家庭学習をよくやっていると言えます。しかし、県学習状況調査の通過率は、決して高いものではありません。このことから、家庭学習の量に見合う質の見直しが必要だと思われます。

家庭学習を充実させるためには、保護者の理解と協力が不可欠ですが、連携が難しい場合があることも想定されます。そのため、学校において、児童生徒の発達段階や実態に応じた指導を行うことが求められるわけです。例えば、学習内容を自分で決めて取り組んでいる児童生徒の割合は高いのですが、実際にどんな内容の学習をしているのでしょう。また、その内容は、その子の力を伸ばすために適切な内容や方法になっているのでしょうか。児童生徒の実態に即しているか、授業に直結しているかなど、家庭学習の状況を今一度点検し、個に応じた学習内容や方法を具体的に指導することも大切です。

以上のように、質問紙調査の結果からも授業改善の必要性や個に応じたきめ細かな指導の大切さが改めて見えてきます。

下北教育事務所では、新学習指導要領を見据え、管内の状況を踏まえたうえで、学校における教育課題の改善の方向性について検討を重ねてまいりました。
以下に、管内の重点事項に対する教育課題を例示しましたので、各校の実態と比較していただきながら、教育課程の編成や自校の教育活動を点検する観点の一つとし、御活用いただくことをお願いします。

授業の充実

□　単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを目指した授業をデザインする。

特別活動の充実

□　学級活動において、学習過程（問題の発見・確認→解決方法の話合い→解決方法の決定→決めたことの実践→振り返り）に見通しをもたせるとともに、解決方法等について「合意形成」することや自分の解決方法等を「意思決定」することを大切にする。

生徒指導の充実

□　学校いじめ防止基本方針に基づき、定期的なアンケートの実施や全ての児童生徒を対象とした個人面談を行うなどして、いじめの積極的な認知に努め、ハートフルリーダーを中心に学校全体で組織的に対応する。

キャリア教育の推進

□　児童生徒の発達の段階に応じて各教科等の関連を踏まえ、特別活動を要としながら、教育活動全体を通じて体系的・系統的に実践を進める。

体育、健康教育の充実

□　それぞれの運動のもつ特性や魅力に応じて、運動の楽しさや喜びを味わわせることを学習の中心に据え、基礎的な運動の技能や知識を身に付けさせる授業実践に努める。

へき地・複式教育の充実

□　少人数学級においては、学習課題や発問、学習形態等を工夫し、児童生徒一人一人の見方・考え方を広げたり、深めたりする指導を充実させる。

道徳教育の充実

□　道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、児童生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる授業づくりをする。（※括弧内は中学校）

環境教育の推進

□　豊かな環境を維持し、持続可能な社会の構築を目指すため、環境教育の意義や必要性について共通理解を図り、組織的・継続的に推進する。

特別支援教育の充実

□　特別支援教育に関する校内委員会等を組織的、計画的、弾力的に実施し、特別支援学級及び通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする幼児児童生徒の実態や具体的な支援内容・方法・場面・役割などを明確にし、全教職員による校内支援体制の充実を図る。

国際化に対応する教育の推進

□　郷土や我が国に関わる学習を踏まえ、諸外国の文化や風土等を理解し、どのような点で類似しているのか、またどのような点で異なっているのかを理解させるとともに、それらを育んできた国々のよさに気付かせる。

情報化に対応する教育の推進

□　学習指導において、児童生徒の主体的な学びを充実させるＩＣＴ活用について、校内で共通理解を図り、その推進に努める。

研修の充実

□　児童生徒の実態を把握し、育てたい資質・能力を明確にした上で、学校の教育課題の解決のために、全教員が参画して計画し、実施し、評価して改善を図る校内研修を推進する。

道徳科における評価Ｑ＆Ａ

指導主事　山本　　敦

小学校では、いよいよ来年度から道徳科が全面実施となります。そこで、道徳科における評価について、Ｑ＆Ａ形式で整理しました。中学校においても、今から共通理解を図っておくことが平成31年度からの円滑な実施につながります。

Ｑ１　何を評価するのか。
Ａ１　道徳科の授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子です。

決して、道徳性ではありません。道徳科の評価に対する抵抗感や不安の声がよく聞かれるのは、「人の心を評価する」というイメージが漠然としてあるからではないかと思います。「評価するのは心ではなく、学習状況である」と考えると、先生方の精神的な負担も軽くなると思います。

Ｑ２　道徳科における評価の在り方として、基本的に踏まえておくべきことは何か。
Ａ２　下記に示したア～オです。

ア　観点別評価はしない
イ　学習活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ること
ウ　個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえて評価すること
エ　他の子供との比較による評価ではなく、いかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う
オ　特に、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること

オは、子供の学習状況を見取る具体的な２つの視点となります。そのためには、子供が多面的・多角的に見方を広げ、自分事として考えを深めていけるような授業づくりが求められます。

Ｑ３　「大くくりなまとまり」とは何か。その中でどのように見取るのか。
Ａ３　大くくりなまとまりとは、年間や学期です。見取り方は、①②の考え方があります。

①　道徳科の時間を横並びにして、突出したところをよさと認める（横断的な見取り）**※図１**
②　学習状況を時間的に縦に並べて、進歩の状況を認める（縦断的な見取り）**※図２**

図１　横断的な見取り

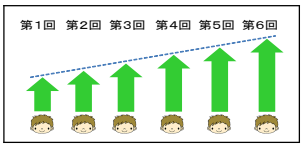


図２　縦断的な見取り

子供の「伸び」を見取ることが大切ですが、まずは①の考え方で、一人一人のよさや頑張りを見付けることから始めると、取り組みやすいと思われます。

Ｑ４　授業づくりの上で、適切な評価を行うための留意点はどんなことか。
Ａ４　ねらいや学習活動との整合性です。

道徳的価値の理解を深めることをねらいとした授業では、例えば、「本当の友情とは何か」ということについて考える学習活動が重要になります。道徳的判断力を高めることをねらいとした授業では、例えば、役割演技等を通じて、どのように行動すればよいか考える学習活動が評価のポイントとなります。また、どのようなねらいであっても、終末において本時を振り返った感想を書かせる場合、その記述内容も評価の手立てとなります。

Ｑ５　話すことや書くことが苦手な子供を、どのように評価すればよいか。
Ａ５　発言や記述ではない形で表出している姿にも着目することです。

個人内評価であることを踏まえ、教師や他の子供の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿などを、その子供のよさや頑張りと捉え、積極的に評価する姿勢が何よりも重要です。

また、一人の発言を他の子供につなげたり、自己を振り返る場面で、普段の生活の中で見られる子供のよさを意図的に取り上げて紹介したりするなど、教師の役割が大切です。

「こう問いかけると、あの子が発言するのではないか」「この場面で、あの子のよさを取り上げてみよう」などのように考えて授業に臨み、子供が反応を見せた時は、教師として大きな喜びを感じるものです。１単位時間の中で、全ての子供に対応した手立てと評価の実施は難しいと思いますが、大くくりなまとまりの中で計画的に考えていくことによって実現するものと思われます。

Ｑ６　評価の具体的な文例はないのか。
Ａ６　「文例集のようなものを示すことはしない」というのが文部科学省からの回答です。

文例を扱った市販の本を有効に活用することは構わないと思います。ただし、目の前にいる子供たちの特性を最も把握しているのは先生方です。子供たちの成長を受け止めて認め、励ます評価について、校内で検討し、工夫していくことが大切です。

お知らせ

今年度行われた独立行政法人教職員支援機構及び県教育委員会主催の各種研修会等への参加状をお知らせいたします。

◆英語教育推進リーダー中央研修［つくば市］
鎌田　幸子（東通中学校教諭）
◆学校安全指導者養成研修［つくば市］
宮野　博伸（奥内小学校教諭）
◆道徳教育指導者養成研修
（ブロック別指導者研修）［盛岡市］
阿部　智里（第三田名部小学校教諭）
齊藤　優美（大畑中学校教諭）
◆環境教育リーダー研修基礎講座［仙台市］
宮野　芳伸（第二田名部小学校教諭）
◆体育・保健体育指導力向上研修［静岡市］
吉田　　理（苫生小学校教諭）

■県総合学校教育センター教員研修講座等の講師
○新規採用学校栄養職員研修Ⅱ
石井　祐子（田名部中学校栄養教諭）
○これからの授業を考える！武道研修講座［剣道］
二階　幸喜（奥戸中学校教諭）
■県総合学校教育センター教員研修講座の発表者等
○気付きの質を高める小学校生活科講座
竹森　雅子（大畑小学校教諭）
○小・中学校特別活動研修講座
大舘　拓也（川内中学校教諭）
○新規採用養護教諭研修Ⅲ
伊藤　貴子（東通中学校養護教諭）
○児童・生徒理解のための調査法の活用研修講座
田鎖　正徳（東通中学校教諭）
○通常の学級における「特別支援教育」研修講座
鳴海　　大（風間浦中学校教諭）
■県総合学校教育センター
教員研修講座の推薦等による受講者
○ミドルリーダー研修講座
菊池　隆一（大湊小学校教諭）
鳴海　　大（風間浦中学校教諭）
○小学校体育科研修講座
渡部　　隼（第一田名部小学校教諭）
山崎　剛史（第二田名部小学校教諭）
○みんなで考える健康な学校づくり研修講座
藤川　優大（大平小学校教諭）
加藤　雄大（大畑中学校教諭）
○指導者が変われば選手が変わる！運動部活動研修講座
對馬　慎太郎（大湊中学校教諭）
藤田　恭平（東通中学校教諭）
○効果的にＩＣＴを活用する授業実践講座
祐川　明生（関根中学校教諭）
○長期研究講座（特別支援教育）
祐川　ちあき（第二田名部小学校教諭）

■その他
○初任者研修実施協議会委員
岩本　浩也（大平中学校校長）
○特別支援教育巡回相談員
吉川　　医（東通小学校教諭）
三嶋　喬平（第三田名部小学校教諭）
藤本　陽子（東通中学校教諭）
○青森県教育支援委員会専門員候補者
山崎　るり子（大湊小学校教諭）
川岸　浩子（近川中学校教諭）
○発達障害等のある児童生徒の支援体制強化事業ツール作成ワーキンググループ構成員
松下　　努（第二田名部小学校教諭）
○教師力向上支援事業中核教員研修
佐藤　さゆり（関根小学校教諭）
氣仙　　透（大湊小学校教諭）
江村　美香（福浦小学校教諭）
木村　浩明（田名部中学校教諭）
本間　恵子（大畑中学校教諭）
長岡　　亮（佐井中学校教諭）
○教師力アップ！学校・家庭・地域連携講座
チーム「学校・家庭・地域」創造研修
四戸　　浩（東通小学校校長）
俵山　純一（東通小学校教諭）
山本　正弘（牛滝中学校教頭）
白戸　一也（関根小学校教諭）＊実践発表者

■表彰校等
○キャリア教育優良教育委員会、学校及びＰＴＡ団体等文部科学大臣表彰
大間町立奥戸中学校
○「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰
むつ市立第二田名部小学校支援活動
○青森県学校給食表彰
むつ市立近川中学校
○ハートフルセミナー実施校
むつ市立関根中学校